

報恩講法要

2023.10.26(木)

講師 白川 晴顯 先生

講題 浄土の存在と意義



報恩講とは、親鸞聖人のご遺徳を偲び讃える法要です。阿弥陀さまのすべての人々を救うというご本願を私たちにわかりやすく伝えて下さったのが宗祖親鸞聖人です。

親鸞聖人のご遺徳を偲び、阿弥陀さまのおはたらきに感謝して、浄土真宗との出遇いを深めて参りましょう。



本日は4年ぶりに御法中が出勤して下さいました。

西光寺様・西法寺様・西條寺様・浄泉寺様・正道寺様・大仙寺様・仏光寺様とともに奉讃大師作法のお勤めをしました。皆様揃って有り難いお勤めでございました。

御法中の皆様、おつとめ前でしたが和気藹々と、リクエストの写真も快く承諾して下さいましたよ。やっぱり皆様にお会いできるのは嬉しいものですね。

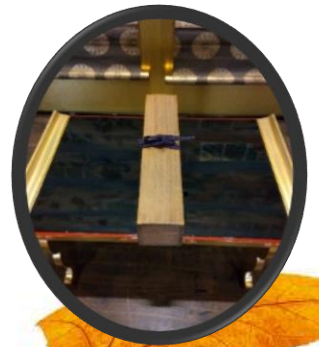


左の軸は『御絵伝』です。

親鸞聖人の御生涯が絵で表され右より1幅～4幅となり、下から上へと仰ぎ見るように描かれています。

おつとめの後は『御俗姓』の拝読です。『御俗姓』とは蓮如上人が親鸞聖人の御生涯や信心をいただくことの重要性を記された書物です。

ごそくしょう



浄土真宗の教えを慶ばれた方のお話。

私たちは風船と同じである、と。風船の中の空気は私たちのいのち。風船が割れたとき、中の空気は外の空気と溶け合う。外の空気はお浄土の世界で、残った風船のゴムは遺骨のようなもの。

仏教では「因・縁・果」と考え、生まれて来て、生きている間に縁を結び、お浄土へ生まれる果となる。絶えず変化し、死んでお終いではなく、阿弥陀さまのおはたらきによってお浄土へ生まれ、阿弥陀さまとともにまたはたらきかけてゆく。決して死んだらお終いではないとお教え下さいました。



御門徒の原田さんが秋の作品を持ち寄って下さり、休憩時間には来られた方のホッと癒される時間・空間となりました。素敵な作品有り難うございました。

法要に際しまして、沢山のお供えを頂戴しました。

法要後、お参りの皆様に御下がりとしてお持ち帰りいただきました。有り難うございました。



多くの方が法要前には仏具のおみがきをして下さり、当日も早くからお茶の準備、その他様々に如来様の御給仕をして下さいました。御法中の皆様、御参詣下さった方ももちろん、多くの方々のお陰さまで無事に報恩講厳修することが出来ました。有り難うございました。

